

## 事故事例－6： グリル(パイプ)シャッターのパイプ部分に腕を差し込み、重傷事故

### なぜ事故が起こったのか

早朝、ビル管理会社の女性清掃職員が電動のグリルシャッターを外から開けようとして、パイプの間から腕を差し込み、内部の押しボタンスイッチを操作したところ、シャッターが上昇し始め、慌てて腕を抜こうとしたが抜けず、そのまま体ごと持ち上げられ、シャッター開口部の上部で腕を切断する重傷を負った。

押しボタンスイッチは、シャッター越しの室内壁面に設置されていたが、シャッターから40cm程しか離れておらず、パイプの間から手を伸ばせば操作できたため、安易に操作してしまった。



### 事故にあわないためには

グリルシャッターの場合、開閉中か否かにかかわらず、パイプ部分に手や足を掛けたり、パイプとパイプの間から手を差し込まないでください。予期せぬときにシャッターが動き出し、大変危険です。

### 事故を起こさないためには

- ・シャッターの動作中は、シャッターが停止するまで目を離さないでください。
- ・グリルシャッターの操作スイッチは、シャッターから手の届かない位置(目安:90cm以上離れた位置)に設置してください。

### 更なる安全のために

事故防止策として、巻き込み防止用光電センサの設置を推奨します。詳しくは、シャッターメーカーにお問い合わせください。